

子どもたちにもう一人保育士を！

保育環境改善を求め 900 人がデモ行進しました。

国連が定めた「世界子どもの日」の11月20日、乳幼児の保育環境の改善を求める集会を白川公園で行いました。ののかぜからも父母・子どもたち・職員が参加し、オープニングでは子どもたちが舞台上がって「世界中のこどもたちが」を合唱して幕開けとなりました。「保育施設での子どもの死亡事故が後を絶たない」「保育士も保護者も保育士の配置基準の改善を願っている」とする集会宣言を採択し、久屋大通公園まで、のぼり旗や横断幕をもってパレードをしました。子どもたちも一緒に横断幕をもって歩いたり、たんぽぽ組のこどもたちも風船を抱えながら一緒に歩いたりして、宣伝行動を行いました。



この行動に先立ち、11月15日には「子どもたちにもう一人保育士を！実行委員会」が県や名古屋市に対して保護者アンケートで、保育園で職員不足や余裕のなさを感じる場面に遭遇したことがあるとの回答に79.6%上がったとし、国の保育士配置基準を求める提言書を提出しました。

保護者アンケートでは、保育士の配置を「不足」と感じる回答は98.1%で、「十分」との回答は1.7%で、記述式の回答の中には、職員の不足や余裕がない事例として、園児一人で園外へ出たという報告が年1回ほどあるということも挙がりました。

本当に日本の保育士配置は海外に比べるととても手薄で、英国では、2歳未満の子3人に対し保育士2人、3歳以上でも13人保育士1人の配置です。



児童福祉法には、「国と地方自治体は保護者とともに児童を心身ともに健やかに育成する責任を負う」としています。一部自治体によっては保育士を配置できるように補助している（名古屋市も同様）ところもあるが、それでは自治体格差が大きくなるばかりです。自治体で任せでは抜本的な改善が望めません。国による配置基準を改善を求めます。子どもたちは国の未来です。

保育をよくする署名、3,829 筆を達成！

安心・安全な保育環境の実現、職員の配置基準の改善を求めた署名運動へのご協力ありがとうございました。

今年度もコロナ禍の中、署名を集めるのが難しかったのではないかと思います。保育運動部が中心となり、楽しく取り組める工夫もしながら進めてきた保育署名が目標の3,500筆を超え3,829筆を集めることが出来ました。一人ひとりが力を合わせてやって来た成果です。これからも子どもたちのために力を合わせてより良い保育環境づくりをしていきましょう。

また、11月2日に国会議員要請行動を行い、59人の紹介議員を得ることが出来ました。

